

2020年11月9日

各位

会社名：富士石油株式会社  
 代表者名：取締役社長 柴生田 敦夫  
 (コード番号:5017 東証第一部)  
 問合せ先：総務部 IR・広報グループ 祖父江 高明  
 TEL: (03)5462-7803  
 URL: <http://www.foc.co.jp/>

## 第2四半期連結累計期間の業績予想との差異に関するお知らせ

2020年8月11日に公表の2021年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2021年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想との差異 (2020年4月1日～2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (2020年8月11日発表)	158,900	2,800	3,800	3,500	45.42
今回発表実績 (B)	162,618	4,528	5,495	4,266	55.36
増減額 (B - A)	3,718	1,728	1,695	766	
増減率 (%)	2.3	61.7	44.6	21.9	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	211,805	△5,730	△6,389	△5,726	△74.31

#### 2. 差異の理由

前回の予想は、第2四半期連結累計期間のドバイ原油価格を35.3ドル/バレル、為替レートを108.8円/ドルの前提で策定いたしましたが、同期間のそれぞれの実績は、36.7ドル/バレル、106.9円/ドルとなりました。

これにより、在庫影響（総平均法及び簿価切下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響）が47億円の原価押し下げ要因（前回予想は40億円の原価押し下げ要因）となったことに加え、精製コストの減少及び国内における燃料油需要の回復傾向に伴う製品マージンの堅調な推移等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益について、前回予想を上回る結果となりました。

以上